

氏名(本籍)	小鷹狩 味香 (広島県)
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第 57 号
学位授与年月日	平成17年3月25日
学位論文題目	看護師が働き続けるなかで体験する負担の実存的側面に関する研究 - 実存的負担状態を表す言葉「しんどい」の提言 -

論文内容要旨

※整理番号	59	(ふりがな) 氏名	こだかり みか 小鷹狩 味香
修士論文題目	看護師が働き続けるなかで体験する負担の実存的側面に関する研究 —実存的負担状態を表す言葉「しんどい」の提言—		
<p>1. 研究目的 看護師が働き続けるなかで体験する負担の実存的側面を明らかにする。</p> <p>2. 研究方法 7名の内科領域臨床看護師である研究参加者に対し、2回ないし3回の半構成的面接を実施した。Heideggerの解釈学的現象学理論を枠組みとし、解釈学者 Gadamerの理論を基盤にした独自の分析方法を用いデータの解釈を行った。</p> <p>3. 結果 研究参加者の平均年齢は29.29歳 (SD2.37)、経験年数は7年目から13年目であり、内科病棟での勤続年数は5年目から9年目であった。総面接時間は平均107分であった。 データ分析の結果、複数の下位テーマを有する5つの大テーマ、【時間の不連続性と連続性の獲得の試みに関連した在り方】、【世界との関わり、他者との距離のとりかたに関連した在り方】、【時間性と距離性を基盤に自己を対象化する人間としての在り方】、【世界のなかにある自己が意味のある出会いを果たしていく在り方】、【時間性と距離性を基盤に自己を対象化し意味ある出会いを果たす存在の意義】が見出された。</p> <p>4. 考察 看護師には、時間性とそこから導かれる距離性という自己の在り方の基盤となるものがあり、働き続けるなかでその時間の連続性と距離の感覚が成立せず、自己の基盤が失われるような事態に直面するとき、その在り方に影響を受けると考えられる。さらに看護師は、自己と他者を対象化し世界のなかで意味のある出会いをしており、働き続けるなかで遭遇する様々な出来事との出会いが看護師に今までにない視点をもたらし、それによって自己をつくりかえねばならないという事態を導くため、看護師はその在り方に影響を受けると思われる。しかし、看護師はそこから新しい自己の在り方の可能性を見出し、看護師として働き続ける在り方を自ら選びとっている。これはストレスや役割葛藤など既存概念で説明できるものとは異なるものであり、これを看護師が働き続けるなかでの実存的側面の負担の体験として、「しんどい」体験と呼ぶことを提案する。</p> <p>5. 総括 看護師が働き続けるなかで体験する負担の実存的側面を明らかにするため、Heidegger理論を枠組みに7名の内科領域臨床看護師に半構成的面接を実施し、Gadamer理論を参考に考案した解釈学的分析方法を用いて分析を行った。その結果、看護師は働き続けるなかで時間性と距離性という基盤をもって自己と他者を対象化し、それによって自己をつくりかえる必要に迫られる体験をしており、自らの在り方に影響を受けていることが明らかにされた。これを看護師の「しんどい」体験と呼ぶことを提案する。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。